

高林白牛口二の謡を聴く会

第一部

おはなし

高林白牛口二

第二部

當麻

高林白牛口二

烏頭

高林昌司

鳥追船

高林白牛口二
柿原孝則

玉之段

高林呻二

主催 高吟会

令和3年 12月3日(金) 午後6時15分始 十四世喜多六平太記念能楽堂 (喜多能楽堂)

● 入場料 (全席自由席) ¥4,000 均一

※当日、當麻の謡本を販売いたします。

● お問い合わせ

※チケットはお電話、メール、ホームページからご購入いただけます。

【高吟会】

E-mail: koginkai@ares.eonet.ne.jp

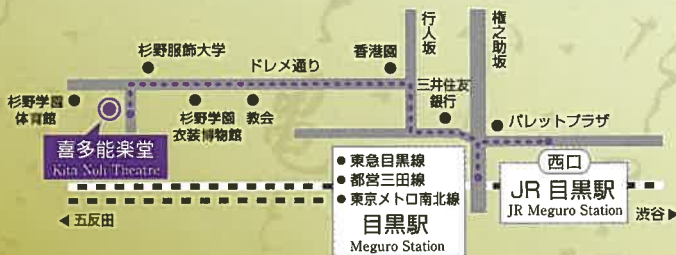
http://www.eonet.ne.jp/~koginkai/

TEL: 075-462-1490 FAX: 075-463-3494

〒603-8354 京都市北区等持院西町15

【喜多能楽堂ホームページ チケット購入ページ】

http://kita-noh.com/ticket/



〒141-0021 東京都品川区上大崎4-6-9 TEL: 03-3491-8813

JR線・東急目黒線・都営三田線・東京メトロ南北線ともに
目黒駅下車徒歩7分

喜多能楽堂は、政府、公益社団法人全国公立文化施設協会などのガイドラインに基づき、感染拡大防止のための対策ガイドラインを定めています。なお、本ガイドラインの内容は、新型コロナウイルス感染症の地域における動向や専門家の意見などを踏まえ、必要に応じて適宜改訂を行うものとさせていただきますので、ご来場の前には喜多能楽堂 HPにてご確認ください。お客様におかれましても、ご自身の感染予防とともに周りのお客様にご配慮いただけますよう、何卒ご協力のほどお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染対策ガイドライン
http://kita-noh.com/covid-19-guidelines/



第九十二回 喜多流涌泉能

令和三年十二月三日(金)

第十二回 高林白牛口二の謡を聴く会

午後六時開場

動静以天地

鈿之翁

視哉涌泉美

第一部 午後六時十五分始

おはなし 當麻について

高林白牛口二

休憩(十五分)

第二部 午後七時始

一曲独吟 當麻

高林白牛口二

仕舞 烏頭

高林 昌司

一調 烏追船

柿原 孝則

高林白牛口二

仕舞 玉之段

高林 呻二

附祝言

終了予定 午後八時半

主催 喜多流 高吟会

當麻を謡うにつき思う事

高林白牛口二

昭和二十九年五月二十六日の事です。十八歳、高等学校を卒業して二ヶ月経った頃です。学業を終えるに当たって、最終的には自己責任で能の家の継承者として決心し、真面目に取組み始めた時期になります。今から思えば純真に心が燃えていた頃です。師匠である父が留守になりました。その間に謡の独り稽古を思い立ちました。

私が使っている謡本は大正年間に発刊された、表紙を開いた第一頁に「喜多正本」と云う朱印の印刷された組本です。全部で四十一冊あり、内の部、外の部、追加に分類され、五番ずつ綴じられています。合計二百四番あります。その他に曲舞として一冊あります。この組み合わせは江戸時代に、幕府に書上として提出した書式に従って、並べられています。曲舞の部は、一曲として整っていない形式のもので、二十七番あります。文字書体は江戸時代に発刊されたままの、変体仮名混じりの毛筆体の書体です。この書体は伝書として伝えられているものと、同様な書体です。この書体に馴染んでいきますと伝書を読み解く場合に、難儀する事はありません。

さて、話を元に戻して、どの曲を謡おうかと考えました。組本の初めからではと思い、内の部の最後の冊である第三十巻を取り出しました。其の中には、海人・當麻・絃上・融・狸々の五番が選曲されています。自分にとって、少し馴染みの少ない「當麻」を選びました。そんなに深い意味を、考えたわけではありません。

さて、何気なく謡い始め、ワキの次第、名乗り、道行と順調に進んで行きました。前シテの最初を、謡い出した時です。留守の笹の父が、後ろから声を掛けてきました。この曲はそんなに簡単に謡える曲ではないと、少し怒気を含んだ声色で言われました。呆然としていますと、そこから真剣な謡の稽古が始まりました。

「當麻」は老女物の下稽古に、位置付けられている曲です。そんな事とは思わずに選曲した私の、とんでもない思い上がりでした。でもそれが、謡の大事さの相伝を受けることに繋がった、貴重な出来事となりました。

この曲の前半は、老女物の雰囲気が必要です。後半は法悦の雰囲気が必要です。前後に位取りの大きな変化が必要な曲です。このような事を下地に置いて、一曲独吟として謡い上げる必要があります。いつものように今回も謡本を見て謡います。これは一時間に亘って独りで謡い通す為の集中力への援護と、ご理解下さい。

次回予告

令和四年 四月九日(土) 午後二時始

第九十三回 涌泉能 於 京都 大江能楽堂

一曲独吟 湯谷 高林白牛口二
能 舎利 高林 昌司

令和四年 六月十七日(金) 午後七時始

第九十四回 涌泉能 於 東京 喜多能楽堂

(第十三回 高林白牛口二の謡を聴く会)

一曲独吟 弱法師 高林白牛口二
他に仕舞・二調